

2011 - 2012 スペシャルクリニック
講習 2

開催日：2012年3月3日(土)

会場：大阪商業大学 521教室

講師：JBA女子日本代表チーム テクニカルスタッフ 恩塚 亨 氏

テーマ：世界のバスケットボールを知るコーチから学ぼう

ゲーム分析をコーチングツールへ：女子代表チームの活動より

ゲーム分析とは

コーチングライブラリーの有効活用方法・・・VTR 編集の実際
プランニング(強化施策)
スカウティング(BOX スコア分析)

「伝えられないことが悪い」・・・情報は発信者(コーチ)に責任あり

アメリカ男子バスケットボール代表チーム キャンプ視察より

ミーティング内容はコーチングスタッフが出すポイント
より3~4つに絞られヘッドコーチが選手に伝える

これ以上増えるとプロ選手といえども混乱が生じるため

EX) ディフェンスにおいて pick & roll の対応

必ずピッカーの DEF はハードショーディフェンスを行い、ガードをペネトレイトさせずに高い位置へ進路を変えさせ元に戻る。ヘルプサイドの DEF はペイント内に入るまで移動する

→ 1mへのこだわりを徹底

オフェンスにおいて pick & roll の対応

ピッカーはスクリーンをかけた後、バスケットに向かって飛びこむかアウトサイドに開くかを素早く判断してプレーを止めない

→ 1秒へのこだわりを徹底

いずれも世界選手権での敗戦より

女子日本代表チーム

- ・コンセプトとして世界最速のオフェンスを展開することと、全試合80得点以上を目指す
- ・コーチは選手への「問いかけ」の全てが大切であるが、それらの優先順位をつけなければならない

【オフェンス編】

・ファストブレイクの分析

攻撃回数に対して得点が伸びない・・・フィニッシュスキルに課題あり

・フリースローが少ない・・・なぜ重要か？

ペイントエリアにどれだけアタックするかが勝敗を分ける

POINTS PER SHOTS (シュート1本で何点獲得できるか?)

3P	FG% : 30%	3点 × 0.3 = 0.9点
2P	FG% : 45%	2点 × 0.45 = 0.9点
1P	70%	1点 × 0.7 × 2本 = 1.4点

- $FTSet = FGA \div (FTA \times 0.44)$
シュートを何本打つと1回フリースローラインに立つかの指標

2010年チェコ世界選手権 女子日本代表チーム 14.2本
ベスト4チーム 7.9本

1996年アトランタオリンピック 女子日本代表チーム 8.0本
から見てもフリースローが少ないのは決して身長が低いからではなく、ペイントエリアをアタックする技術が乏しいからであると分析できる。

【ディフェンス編】

- リバウンド獲得率

OFF Reb 10 / Total Reb Ball 50 = 20%

OFF Reb 10 / Total Reb Ball 25 = 40%

リバウンドを相手に取られることによって失点する。それを阻止できれば失点が減り、攻撃に移ることができ、得点が増えればゲームを支配できる。当たり前だが、リバウンドは試合を決める大きな要素となる。

女子日本代表チームの分析結果より

- 1) ゴールへのアタックスキル
- 2) ファストブレイクでのフィニッシュスキル
- 3) リバウンドでのボックスアウトスキル(素早く、力強いコンタクト)

以上3つの重点ポイントを挙げ、技術向上のための課題として捉え練習するとの説明であった。

スカウティング

- BOX SCORE からチームの特徴を読む

・・・最初は難しいが、数値の持つ情報一つずつ感じ、選手、チームの特徴をつかむ

- モチベーションビデオ

相手チームばかりを分析するのではなく、ビデオカメラで録画した自チームの良いプレー、またはもう一度見たいプレーをクリップにして集めた画像を、試合前のミーティングにて確認し、選手、コーチとも自信を深める

恩塚氏はアトランタオリンピックとチェコ世界選手権の女子日本代表チーム監督であった中川文一氏との談話について述べ、アトランタは3PのFG%が良く勝ったとされているが、実際はチェコ大会との比較

でも3PのFG%は、そこまで違いはなく、監督の感覚と示された数値データとの間に認識の差が生じていたことも報告された。